

大学図書館職員長期研修に参加して：研修日記より

附属図書館情報管理課 平 元 みさえ

7月16日朝：図書館情報大学女子寮5階の一室でつくばでの初めての朝を迎えた。カーテンがないのと、鳥の声、そして若干の緊張とでいつになく早く目が覚めた。今日から3週間、講義・実習・見学、内容も大学図書館行政・健康管理／体育・データベース・情報処理……と盛りだくさんな「大学図書館職員長期研修（文部省）」が始まる。それにしても朝から暑い。長くて暑い3週間になりそう。

7月16日夜：講義終了後、初日恒例の懇親会が行われた。北海道から鹿児島まで全国の大学（国公私）から38名の図書館職員が参加しているが、今年は男女ほぼ半々で、例年になく女性が多いとのことだ。考えてみたら、図書館職員の構成は、大体、どこの大学でも女性が多いのだから、格別驚くことではない。数年がかりでやっと研修に参加できたという受講生がいる一方で、タイミングよく、順番がまわってきて27～8歳で参加した受講生もいる。大中小、国公私、自然系、人文系等々、様々な図書館から、利用部門、整理部門、システム関係等、様々な業務に関わる受講生が参加している。図情大の竹内図書館長がおっしゃるところの「人際」（人災ではない）を深める努力をなくては。

7月17日：今日の講義で印象に残ったのは第4講で、これからの図書館の方向を示唆するもので関心をもって聞くことができた。講義の主旨は、「大学の研究・教育活動に対する情報技術の影響がますます著しくなっている状況のもとで、図書館の位置づけと役割を再考する時期にきている。個々の図書館における業務の機械化を経て、現在は各種のネットワークの形成により、大学の枠を越えた情報活動が行われている。このような状況のもとで、図書館員によるデータベースの代行検索にかわり、利用者自身がデータベースのオ

ンライン検索を行い、CD-ROM版の検索を行う時代に移行しつつある。また、OPACやCD-ROM目録の普及にともない、利用者自身がみずからの手で、さまざまな情報源を探索し、必要な情報を取捨選択する機会が増加している。利用者自身の情報収集活動を側面から支援するのが図書館サービスの重要な要素である。そのために、図書館は、環境の整備、積極的なPR、利用指導の工夫等に力をいれなければならない。利用者のニーズを受けて行動することから一歩進めてニーズを掘り起こし、図書館は何ができるかを利用者には知らせる努力が求められる。」ということであった。各図書館を個々にみていくと様々な状況にあるが、確かに、大学図書館全体の傾向は講師のお話の通りであろうと思う。京大の附属図書館においては、OPAC提供、CD-ROMの導入など徐々に環境整備はされつつある。その内容はまだまだ満足できる状況にはないが、今、何ができるかを利用者にはアピールし、さらに利用者との相互作用の中で図書館活動をすすめていきたいものと思った。

7月22日：今日は、健康管理の講義と体育実習があった。健康管理の内容は、VDT作業が中心であった。ショックだったことは、40歳をこえと、眼の機能は徐々に低下する、それを防ぐ手だてはないということ、ということは、私の眼も深く静かに衰えつつあるのかしら……まあともかく、今日で1週間無事に終わった。

7月31日：今日の第1講の筑波大学のベッカー先生には驚かされた。15年前に京大附属図書館を利用された時のことが話題になり、いきなり、「今はそんなことはないでしょう、平元さん」と声をかけられた。話の内容もさることながら（「今は絶対そんなことはないはず」というもの）、名前をよばれたのには本当に驚いた。さらに講義をすすめる中で、その時その時の話題に応じて、その

人を見ながら受講生の名前を呼ばれた。そういえば、先生は、昨日、受講生席の後方で講義を聞いておられた。その時に覚えられたのだろうか。受講生一同ただただ感心するのみ。

8月2日：今日の午後は、4班にわかれての共同研究討議が行われた。あらかじめ準備された各人の発言要旨をみても、今日の討議からも、それぞれいろいろな問題をかかえて業務に取り組んでいることがわかる。ほぼ共通してあげられていたのが、「予算と人員」の不足である。「人」の問題で

は、特にシステムまわりを担当している方々の、要員の確保を望む声は切実であった。限られた「予算と人員」とよりよい図書館サービスをどうバランスさせるか、難しい問題である。

明日でこの研修が終わる。受講生全員、病気、怪我なしで修了式を迎えられそうだ。第1日目の懇親会を初めとして、見学先でのいくつかの懇親会、寮での交流などなど、昼の研修にくわえて、夜の研修も充実していた。この研修に気持ちよく送り出して下さった職場の皆さん、どうもありがとう。来週から、職場に戻って仕事にがんばらなくては。

「平成2年度漢籍担当職員講習会（漢籍電算処理）」の開催

大学図書館、公共図書館、その他の図書館施設等において、漢籍の整理等の業務に従事する図書館職員に、学情報システムの環境整備の一環として、漢籍ならびに中国の文献目録を電算処理することに関する基本的な知識と技術の普及に重点をおく講習会で、文部省と人文科学研究所附属東洋学文献センターの共催で毎年開催される。本年度は下記のとおり開催され、国公私立大学17校、公共図書館5館、から合計24名が受講した。

記

第1日：10月1日（月）

開講式、オリエンテーション：人文科学研究所附属東洋学文献センター長

講演「人文科学とデータベース」星野聰（大型計算機センター教授）

講義「東洋学文献類目の編纂とフォーマット」都築澄子（東洋学文献センター事務官）

講義「東洋学文献類目の計算機処理」河野典（大型計算機センター技官）

講義「東洋学文献類目と漢籍目録の電算処理」勝村哲也（東洋学文献センター助教授）

第2日：10月2日（火）

講義「漢字入力に便利な三角編号法」松村哲也（東洋学文献センター助教授）

講義「計算機処理入門」隅元栄子（大計算機センター技官）

講義「データベースについて」川原稔（大計算機センター助手）

見学 大計算機センター

実習 データベース検索（1）

第3日：10月3日（水）

講義「知識情報処理」石橋勇人（大計算機センター助手）

講義「マルチメディアと言語処理」久保正敏（大計算機センター助教授）

実習 データベース検索（2）

第4日：10月4日（木）

講義「UNIXと情報検索」安岡孝一（大計算機センター助手）